

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>「力のある特別支援学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「教育力のある特別支援学校」 児童生徒の人権を大切に、最大限の発達と進路保障を追求する学校 ○「対話力のある特別支援学校」 家庭・地域社会と連携し、常に相手の立場に立って考え行動する、地域に開かれ地域から信頼される学校 ○「組織力のある特別支援学校」 チームワークに徹し、進んで支え合い学び合う、働きがいのある学校
		<ul style="list-style-type: none"> ○「将来の夢」や「なりたい自分」を思い描き、その実現に向けて、人とつながりながら学校生活を送ることができる子ども。 ○自己肯定感や自他ともに大切にする人権意識を持ち、地域社会で生きていける力を身に付けていく子ども。
(2)	育みたい児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒・保護者の教育的ニーズや願いを把握したうえで、一人ひとりに応じその可能性を伸ばす指導・支援ができる教職員。 ○ 肢体不自由児教育に対する高い専門性を持っており、自信を持って授業を行う教職員。 ○ 子どもや保護者、同僚との会話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員。
	ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒・保護者の教育的ニーズや願いを把握したうえで、一人ひとりに応じその可能性を伸ばす指導・支援ができる教職員。 ○ 肢体不自由児教育に対する高い専門性を持っており、自信を持って授業を行う教職員。 ○ 子どもや保護者、同僚との会話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><児童生徒> 安全で楽しい学校生活、卒業後の自立と社会参加</p> <p><保護者> 専門的な肢体不自由教育の充実、高等部卒業後の進路先確保</p> <p><地域の小中学校等> 特別支援学校のセンター的機能の充実、交流及び共同学習の充実</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><保護者> 進路先や福祉事業所と学校の一層の連携 <関係機関（福祉、医療、労働等）> 支援にかかる情報の共有 障がい者を雇用することに対する不安の解消 <地域の学校> 児童生徒の居住地校との連携による相互理解</p>	<p><保護者> 早期からのキャリア教育における連携の推進 <関係機関（福祉、医療、労働等）> 肢体不自由の児童生徒の支援・介助等に対する理解の深まり <地域の学校> さらなる積極的な交流及び共同学習の実施</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の変化を察知できる体制を継続する。 ・関係機関との連携を図る場合、個別の教育支援計画の活用を企図していく必要がある。 ・個別の教育支援計画と個別の指導計画を連動させ、かつPDCAサイクルに落とし込むことで、子どもの教育、発達を保障する。 ・GIGAスクール構想において、さらにICT教育を授業に多く取入れ実践を進める。 ・教職員の時間外勤務の多さに改善が必要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の障がいや重度・重複化・多様化が進んでいることから、児童生徒一人ひとりの実態に応じた教育活動を行うため、肢体不自由児教育に係る専門性及び授業力の向上が必要である。また、ICTを活用した授業実践を進める必要がある。 ・自立と社会参加につながるキャリア教育を全学部で実施するとともに、センター的機能を発揮し関係機関との連携を深め、進路先の充実を図る必要がある。また、共生社会に向けて交流および共同学習を工夫して実施する必要がある。 ・教科横断的な教育活動において、教科のねらいについての的確な評価を行い、成果を積み上げるよう教育課程を再検討することが必要である。 	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・創立以来43年を経過して校舎が老朽化していることなど、児童生徒が健康で安全な学校生活を送るための人的、物的環境に関する様々な課題を解決し、肢体不自由の特別支援学校として適切な教育環境を整備する必要がある。 ・児童生徒にとって安全で安心な学校となるよう、防災や感染症対策など教職員の危機管理への意識向上を図る必要がある。 ・保護者・地域への情報発信のため、ホームページの充実が必要である。 ・円滑に公務を運営するために、会議の精選と効率化を図るとともに、教員間の連携・協働を強化し、業務の偏りを解消し、総勤務時間の縮減を図る必要がある。
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育活動を行うため、系統的な進路学習やICTを活用した取組を推進し、肢体不自由児教育の専門性の向上を図る。 ・交流および共同学習の取組を通して、児童生徒が生き生きと生活できるよう地域とのつながりを深める。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの意識を高め、児童生徒および保護者、関係者からの信頼にこたえられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動を行う。 ・安心して安全な教育環境の整備を進めるとともに、感染症対策や防災等における危機管理の取組を推進する。 ・組織の見直しを進め、効率的な業務の進め方について検証し、働しやすい学校となるよう改善を進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程の 編成・系統的な 進路指導	(1)教育課程別に設定された年間授業計画を児童生徒一人ひとりの「個別の指導計画」に反映し、実施する。 <教務部> 【活動指標】 ・各クラスでの検討 3回/年 【成果指標】 ・「個別の指導計画」に適切に反映される。	【活動指標】 3回実施できた。 他に、毎日のクラスの話し合い等でも検討が十分に行われた。 【成果指標】 「個別の指導計画」に反映できた。設定された各授業の目標や手だてを教員が共通理解し、授業の中で目標が達成されるよう実施した。	
交流及び共同 学習の推進	(1)児童生徒の居住地にある学校や近隣の学校等との「交流及び共同学習」を進める。 <研修部> 【活動指標】 ・居住地校交流の実施 希望者 1回以上/年 ・各学部で学校間交流を実施する。 3回/年 【成果指標】 保護者満足度調査の結果 ・交流及び共同学習(居住地校・学校間交流)について「概ね満足」以上の保護者80%以上	【活動指標】 ・居住地校交流では、小学部12人、中学部2人が希望し、1回以上の交流を行った。 ・学校間交流では、小学部3回、中学部2回、高等部3回、実施。(小学部:オンライン交流2回と作品交流1回。中学部:オンライン交流。高等部:対面交流。) 【成果指標】 ・保護者満足度調査の「学校は交流学习を大切に考え取り組んでいる」に「そう思う」「ややそう思う」の回答が93%であった。	
命を大切に する教育の 推進	(1)成功体験を積ませることで自己効力感を育成するとともに、自己および他者の命の大切さを伝えていく。 <主事部> 【活動指標】 ・「命を大切にする教育」の取り組み1回/学期 【成果指標】 ・取り組みが「個別の指導計画」に反映される。	【活動指標】 ・小学部では「集会」「なかま」の授業、中学部では「道徳」「ことば」の授業、高等部では「道徳」の授業を中心に、家族、友だちの大切さや戦争と平和を題材に学期に1回以上実施した。 【成果指標】 ・児童生徒の心身の変容、成長が個別の指導計画の学習の様子に反映された。	
	(2)いじめ、体罰防止の推進。 <いじめ防止委員会> 【活動指標】 ・アンケートおよび聞き取り調査1回/学期 ・毎日のクラスの話し合い、学部会での情報共有 【成果指標】 ・認知したいじめを解決 100%	【活動指標】 ・学期末にアンケート及び聞き取り調査を全児童及び保護者を対象に行い、情報を共有した。 ・放課後のクラスでの反省や学部会で児童生徒の情報交換や共有を行った。	

	・体罰事案発生 0件	【成果指標】 ・認知したいじめ0件。 ・体罰事案は0件。	
改善課題			
活動指標、成果指標とも概ね達成されている。コロナ禍が続く中ではあるが、昨年より、多くの行事に取り組み、特に交流に関して対面での実施も含め、オンラインでも学期ごとに学校間交流ができた。今後、開催方法、活動内容などを検討し、より深い交流を考えていきたい。教育課程については、4年後の学校整備も視野に入れて、引き続き検討を重ね、学校教育目標達成に向けて取り組んでいく必要がある。			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性の向上	(1)一人ひとりの課題に沿った授業づくりを目指し、学習指導力の向上を図る。<研修部> 【活動指標】 ・校内研究 9回/年以上 【成果指標】 ・職員満足度調査の結果、学習指導における指導力が向上した教員70%以上	【活動指標】 校内研究10回実施。授業をビデオ撮りし、それを元に学習グループ内で授業の見直しを行ったり、他学部の授業ビデオを視聴し話し合ったりすることで、教員間で授業の内容の共通理解を図り、児童生徒一人ひとりの課題に沿った授業作りに取り組んだ。 【成果指標】 「学習指導における指導力が向上した」に88%概ね満足と回答した。各学部の授業内容を知り、授業を観て感じたことを意見交換することで、指導力向上につなげることができた。	
	(2)専門資格を有する本校職員の専門性を有効に活用し、全教員の「自立活動」と小・中・高のつながりを意識した指導力を高める。<研修部> 【活動指標】 ・校内外の専門資格を有する者等が講師を務める「自立活動」にかかる研修会 10回/年以上 【成果指標】 ・職員満足度調査の結果、自己の「自立活動」や「キャリア教育」に関する指導力が向上した教員80%以上	【活動指標】 「自立活動」にかかる研修会は、年7回実施した。 【成果指標】 「自立活動」:76%が概ね満足と回答。 「キャリア教育」:76%が概ね満足と回答	
	(3)GIGA スクール構想における ICT 環境 (iPad、支援機器類) の整備と活用を進める。また、授業力向上のための研修会を実施する。<情報教育部> 【活動指標】 ・情報研修会 6回/年開催。 【成果指標】 ・研修会により、ICT を活用した授業力が向上した教員80%以上。	【活動指標】 教職員のICT活用能力向上を目指してアンケートから得たニーズを基に研修会を6回実施した。 【成果指標】 今年度の情報研修会に参加した教員の約69%が、ICT を活用した授業力が向上したと回答。	
センター的機能の発揮	(1)一人ひとりに応じた進路選択につながるよう、キャリア教育を行うと共に、連携会議、移行支援会議などの充実を図る。<進路支援部> 【活動指標】 ・アセスメントシートでの実態把握 2回/年 ・キャリア教育に関する研修 1回/年 【成果指標】 ・昨年度末のアセスメントシートが「個別の指導計画」に反映されること。 ・各会議後のアンケートで「概ね満足」以上の保護者80%以上	【活動指標】 ・担当者間で、年2回児童生徒の実態把握についての協議を行うことができた。 ・キャリア教育に関する研修会を校内で行い、視点を共有することができた。 【成果指標】 ・アセスメントの結果も加味して個別の指導計画を検討し反映することができた。 ・連携会議に当日参加した保護者の85%から「概ね満足」以上の感想を得られた。	
	(2)学校見学、巡回相談等の全てのニーズに応える。<進路支援部>	【活動指標】 ・学校見学は3件、巡回相談は56件。	

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校見学、巡回相談の申し込みはすべて受け入れ、ニーズに応える。 ・来校相談 3 件／年以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての依頼に応じる。 ・来校相談での満足度調査で「概ね満足」以上が90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・来校相談は2件実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談を依頼された保幼小中学校へは、年2回計画的な支援を行った。 ・来校相談の2校とも満足度調査は、「満足」という回答だった。 	
	<p>(3) 交流及び共同学習を通して、本校の児童生徒の理解を進める。 <研修部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の振り返りで交流相手校に聞き取りを行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流及び共同学習をして「よかった」「概ねよかった」と返答した相手校80%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流、居住地校交流ともに聞き取りを行った。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流の児童生徒にとって、交流をしてよかったかに対して、「よかった」「概ねよかった」の回答が100%であった。 ・学校間交流の相手校と来年度も話合いの中で今後も進めていくことを確認した。 	
<p>危機管理能力の向上</p>	<p>(1) 安全安心な教育環境の整備をすすめる。 <生活保健部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全クラスによる緊急対応訓練を1学期中に実施する。 ・感染防止マニュアル、新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインの見直し等を行う。 ・日々の健康観察、衛生指導及び児童生徒が触れる場所の消毒の徹底を行う。 ・感染症対策研修会、救急救命法講習会を実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査の結果、本校の危機管理対応について「概ね満足」以上 90%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 学期中に緊急対応訓練を実施したのは80%にとどまった。2学期 100%となった。 ・国及び県の指針、情勢等を見ながら随時、見直し、更新を行った。 ・毎日、健康観察カードを活用し、体調を観察、管理することができた。使用教室、教材の消毒も授業後必ず行い感染予防、衛生管理実施することができた。 ・感染症対策研修会及び救急救命法講習会(web 講習会)を実施した。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査により、「概ね満足」以上と回答したのは93%であった。 	
	<p>(2) 児童生徒の実態に対応した防災機能強化を進めるとともに訓練を実施する。 <総務部></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練実施(全校2回<火災・地震>、不審者対応 1回、スクールバス救援出動2回、スクールバス引き渡し1回)／年 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度調査の結果、本校の防災対策が向上した職員80%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練(火災、地震、不審者対応)3回、スクールバス救援出動2回、スクールバス引き渡し1回を実施した。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の防災に対する意識が上がっており、職員満足度調査で「自己の危機管理能力が向上した」と回答した職員は88%だった。 	
<p>学校運営の効率化・同僚性の</p>	<p>(1) 内規及びマニュアル等を円滑・適切に運用し学校運営の効率化を図る。 <企画運営委員会></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後に開催する全員参加の会議・研修会の60分以内に終了 90%以上 ・定時退校日を月1日と長期休業中に設定するとともに、定時に退校した職員 90%以上 ・学校閉校日を年2日以上設定 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの月平均時間外労働 10時間以下 ・1人当たりの年間休暇(年休・夏期休暇) 取得日数15日以上 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60分を越える全員参加の研修・会議は、4回で60分以内に終了は82%となった。 ・定時退校日は11月を除く各月と長期休業中に設定した。定時退校した職員は 89.9%となった。 ・学校閉校日は夏季休業中に3日設定した。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月平均時間外労働 約6.4時間 ・年間休暇取得日数 23.2日 ・年360時間 2名予想 ・月45時間 延べ8名 	

	<p>(2)組織運営の在り方を継続的に改善し、「やる気」と「元気」がみなぎる組織風土を醸成するため、学校改善活動に取り組む。職員のメンタルヘルスや職場の人間関係づくりに関する取組を進める。</p> <p style="text-align: center;">＜総務部・学校安全衛生委員会＞</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営品質向上活動にかかるミーティングを実施 ・メンタル相談のお知らせを告知する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度調査の結果、日々の仕事にやりがいを感じている職員 80%以上 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の親睦を図ることを目的とし、「こんな特別支援学校で働きたいなあ」をテーマに、「わたらいオンミーティング」を実施した。 ・メンタル相談については、随時相談の告知を行った。 <p>【成果指標】</p> <p>職員満足度調査の結果77%と昨年度を下回った。</p>
	<p>(3)児童生徒一人ひとりに応じた誠実な支援により、保護者・関係者からの信頼に応えられるよう、人権尊重の態度で教育活動を行う。</p> <p style="text-align: center;">＜学校信頼向上委員会＞</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会開催 8回／年 ・コンプライアンスミーティング3回／年 ・学期毎のスローガンを設ける 3回／年 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度調査の結果、「学校は、人権を大切にし、子どもの気持ちに寄り添った支援を行っている。」概ね満足以上の保護者90%以上。 ・職員満足度アンケートの結果「学校全体として、自由に意見を言えるような雰囲気がある」概ね満足以上の教職員 80%以上。 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会 年11回開催 ・コンプライアンスミーティング 学期毎3回開催 ・スローガン 学期毎に3回設定 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート結果 95% ・職員のアンケート結果 62% <p>昨年度の58%より上がったが、改善が必要</p>

改善課題

教員アンケートにおいて、いくつかの項目で目標が達成されない状況があった。教員の多忙さは解消されていないことが現状である。専門性の向上に関しては、研修の回数や内容は昨年並みであったが、新転入者が多く肢体不自由教育の経験が少ない教員が増えたことと、経験年数の長い教員もいることで、全職員の学びを深める研修の持ち方が難しかった。よりよい教育活動を行うためにも、余裕を持った業務内容及び教員間の情報共有が必要と考え、業務の見直しを行うことが、今後も課題である。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>校内研究や個人の研究等は、度会特別支援学校の財産である。Web等を活用してもっと発信するとよい。</p> <p>自立とはいかに依存先を増やせるか、という観点から、自立活動の一つのねらいとして考えてみてはどうか。</p> <p>教員の多忙感を改善していけるとよい。忙しくても休憩を取り、少しでも何か一緒に取り組み、楽しむこと（コミュニケーション）が組織の一体化につながる。</p> <p>業務の偏りがあるので、業務の効率化をできるとよい。ストレスチェックを利用し改善点を探るとよい。</p>
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>交流及び共同学習は、重要な学習ととらえ、人権教育推進協議会の中でも関係学校長とも協議し、今後もよりよい取組となるよう続けていきたい。新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、できれば対面での交流も視野にいれ、学校間の担当者でより深い学びにつながるよう計画、実施する。また、担当者間の交流も含め取り組んでいく。教育課程については、4年後の学校整備も視野に入れて、引き続き検討を重ね、学校教育目標達成に向けて取り組んでいく。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>教員の多忙さ解消のため、時間外労働が多くなる時期（特に年度始め）の行事計画等の見直しを、学校信頼向上委員会で検討し、来年度実施していく。この結果を見て、今後の対応を考えたい。また、業務の偏りに関して、教職員全体にゆとりを持たせられるように、多様な働き方、個々の状況を考えてお互いに助け合い、協力する意識を持つ。そのために、普段からコミュニケーションの重要性を意識し、教職員の間をつながりを作るようにする。</p> <p>専門性の向上に関して、研修の内容を再検討し、経験値の違いにかかわらず、全職員の学びを深め、主体的に取り組めるように研修を計画する。特に小・中・高の一貫した教育を行う観点に立ち、「自立活動」と「キャリア教育」を軸に、専門性の向上に取り組んでいく。</p>